

科目区分：教育の基礎的理解に関する科目等

授業科目名：生徒指導・進路指導論

タイトル：生徒指導・進路指導論

執筆者：梅田崇広（教育学部）

1. 授業の基本情報

本授業は、前期に教育学部の中等教育コース・特別支援教育コース（主として中等免許を取得予定の者）の学生、後期に理学部・工学部・農学部の学生に対して行われた。授業の実施形態は、対面形式で実施した。受講者数は前期は 41 名、後期は 95 名（理学部 71 名、工学部 8 名、農学部 16 名）であった。

本授業の目標は、次の 4 点とした。

- ①生徒指導の定義と考え方、教育活動上の機能について説明できる。（知識・理解）
- ②現代的な生徒指導上の諸問題について、現状を分析し対策を説明できる。（思考・判断・表現）
- ③生徒指導の基礎である児童生徒理解をすすめるための適切な態度や方法を説明・実践できる。（技能）
- ④積極的に他者と議論し、教育実践の改善・高度化をめざす態度を形成する（関心・意欲・

態度）

第 1 回～第 10 回まで主に生徒指導に関する基礎的知識・理論について学習し、知識を踏まえたうえで実践的検討を行い、第 11 回～第 14 回まで主に進路指導・キャリア教育に関する基礎的知識を学び、実際にキャリア教育に関する実践プログラムを作成する構成となっている。第 15 回目は本授業のまとめとして、生徒指導・進路指導・キャリア教育の要点について解説をした。授業シラバスは、表 1 に示すとおりである。

表 1：「生徒指導・進路指導論」シラバス

第 1 回	オリエンテーション：成長を促す指導に向けて
第 2 回	生徒指導の意義・方法原理・位置づけ
第 3 回	さまざまな教育活動ですすめる生徒指導

第 4 回	生徒理解の意義と方法
第 5 回	教育相談の意義と方法
第 6 回	生徒指導体制の構築と家庭・地域・専門機関等との連携
第 7 回	生徒指導に関する法制度
第 8 回	中学校・高等学校における暴力・非行をめぐる生徒指導
第 9 回	中学校・高等学校における不登校をめぐる生徒指導
第 10 回	中学校・高等学校におけるいじめ・インターネット利用をめぐる生徒指導
第 11 回	進路指導・キャリア教育の意義・方法原理・位置づけ
第 12 回	計画的・組織的にすすめる進路指導・キャリア教育
第 13 回	生徒一人一人の発達と課題によりそう進路指導・キャリア教育
第 14 回	学校段階間の接続をふまえた進路指導・キャリア教育の推進
第 15 回	まとめ：生徒指導と進路指導・キャリア教育の要点

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価は、前期・後期ともに業内のディスカッションや作成物、小レポートが 30%、中間テスト 20%、期末課題 50%で行った。小レポートは、その日の授業内容に関して受講生にテーマを課し、400～800 字程度で記述をしてもらい、Moodle を通じて提出をしてもらった。

そのほか、今年度から、生徒指導提要の改訂に伴い、基礎知識の定着のための中間テストと、課題探究的な学びの回を新たに設けた。具体的には、多様な社会・文化・経済的背景にある子どもたちについて、各テーマ（例えば「ジェンダー」「貧困」「障害」等）に分かれ、生徒指導の 2 軸 3 類 4 層構造の重層的な支援構造の視点からに対する指導・支援の課題と実践構想を検討・発表した。テーマによって指導・支援の課題や実践のあり方が共通する部分や異なる視点が必要な場合など、多様な視点から生徒指導について考えられる機会となり、受講生からも「表面的な知識にとどまらず、実際の指導・支援について構想できた点がよかった」「各グループの発表を聞く中で、自分のテーマ以外の指導・支援につい

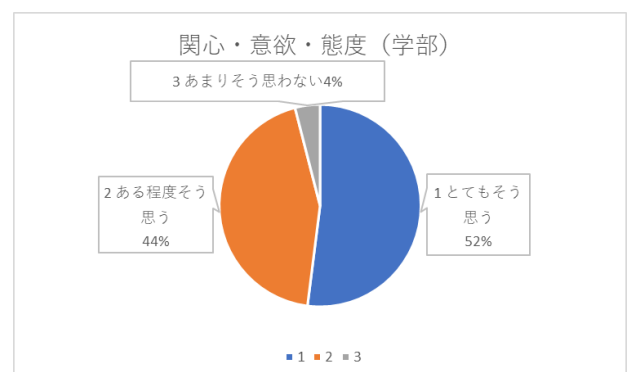
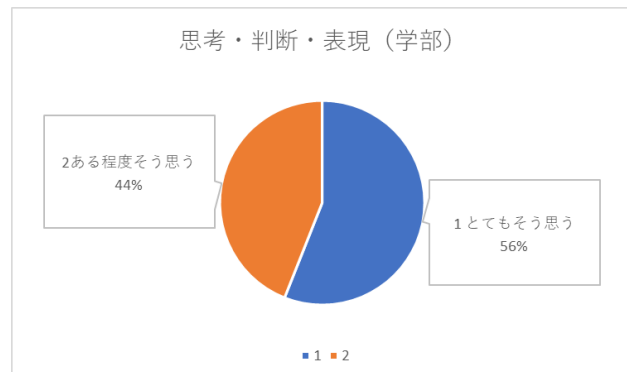
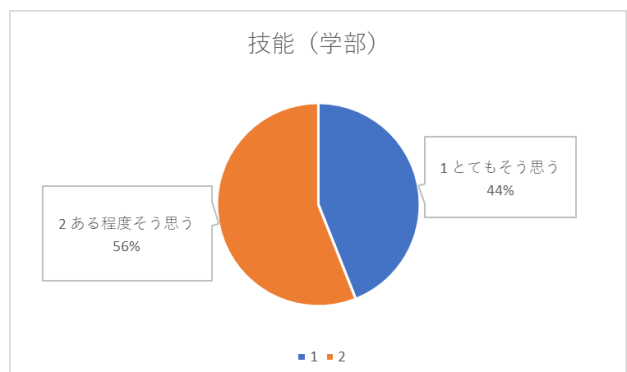
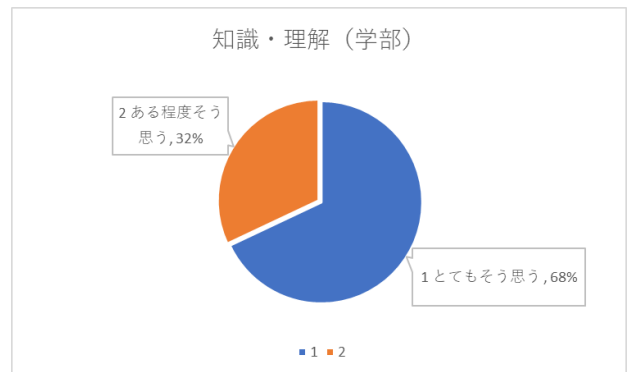
でも考えることができたので学びになった」といった声があった。

授業内容等に関する質問がある際には、毎時配布するコメントシートに記述するよう指示した。基本的に次時の冒頭にコメントや質問等へのフィードバックを行った。この取組については、「毎回のコメントへのフィードバックが、前時の振り返りにもなり、よい取組であった。「自分自身もよくわかっていない、疑問に思っていたことだったことがあり、参考になった。」といった声を得た。

授業全体に関する学生からのコメントとして、「座額の講義形式だけでなく、自分たちで生徒指導上の課題について考え発表したり、キャリア教育の指導計画を作成・発表するような機会があり、深く学ぶことにつながった」「基礎的な知識だけでなく、それに対する異なる、批判的な見方や考え方についても提示してもらったため、自分の中の固定観念が更新されていった」といった声を得られた。

最後に、本授業で実施したアンケート結果（前期）を以下に示す。回答総数は名で、有効回答数は 25 名である。質問内容は、本授業を通して教育学部ディプロマ・ポリシー（以

下、DP）に対応した資質・能力をどの程度習得できたかを問うものである。回答は 4 件法（1:とてもそう思う、2:ある程度そう思う、3:あまりそう思わない、4:授業の目標・内容がこの DP とは無関係である）でたずねた。



上記の結果からは、どの項目においても、
9割以上の受講生が一定程度の資質・能力が
身につけていることが示される。

今後は、本年度に行った授業実践をもとに
授業研究を継続し、より学びを深化していく
ための内容の精選や授業方法を改善していく
ことが課題となる。